



新春のご挨拶



副市長、教育長、市立病院長から市民の皆様へ、
「2020年の抱負」を申し上げます。

副市長 井上 昇

本市では、昨年も保育所等の新設や定員拡大を着実に進め、4年連続で待機児童数ゼロを達成いたしました。今後も子育て世代が安心して子どもを産み育てられるよう、待機児童対策を積極的に実施し、切れ目ない支援を行ってまいります。また、平成30年4月には大和市企業活動振興条例を施行し、すでに4社の新規企業誘致に成功しております。これにより新たな雇用の創出や税収の確保に加えて、従業員の増加に伴い、まちの活性化にもつながるものと、大きな期待を寄せております。



副市長 金子 勝

本市では、あらゆる世代のかたに多様な活動の場を提供していくため、「文化創造拠点シリウス」や「市民交流拠点ポラリス」などを開設してまいりました。現在では、これらの施設が多くのかたがたに活用され、本市の新しい文化が成長しています。また、本市ではスポーツで地域に貢献するホームタウンチームの活動によるスポーツ文化にも力を入れており、市民の皆様へ元気を提供しています。これからは、さまざまなスポーツにおいて、ホームタウンチームが誕生することを期待しています。



教育長 柿本隆夫

今年4月から、小学校では新しい学習指導要領の完全実施を迎え、「学びの姿」も大きく変わります。具体的には、自分で学習の課題を整理し、筋道立てて考えることや、考えた内容を友達と検証し合うことなどが求められるようになります。新しい「学びの姿」では、未来の担い手である子どもたちが、自分らしく、よりよく生きていく力を身につけることを目指します。教育委員会としても、社会の変化を見据え、一層の授業改善に取り組むとともに、放課後寺子屋やまなどの教育施策のさらなる充実を図ってまいります。



市立病院長 五十嵐俊久

市立病院では、昨年、高精度の放射線治療装置を導入するとともに、常勤の放射線治療医を配置し、「地域がん診療連携拠点病院」としての機能を充実させました。本年は緩和ケア診療の体制も強化していきます。また、災害拠点病院および県周産期救急医療システムの協力病院として広域的にその役割を果たすとともに、救急、小児、脳卒中、心臓疾患などの診療体制・機能の充実を進めます。さらに、地域の医療施設、福祉・保健関連の諸機関との連携を一層強化し、地域包括ケアシステムを推進していく所存です。

